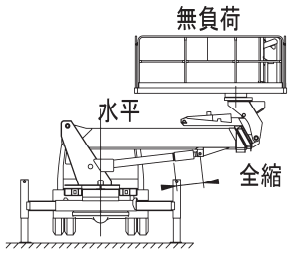
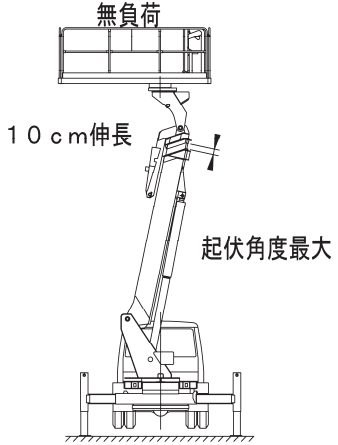
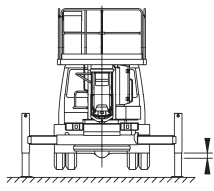


タダノ

適 用 範 囲		モ デ ル 名		AT-320XTG		
		仕様		STD仕様		
		適用号機		371486～		
区分	検 査 箇 所	適用項目 ※測定条件、方法		単 位	検 査 基 準 値	
作業装置	ブーム	スライディングパッド部のガタ	上下方向	mm	2以下	
			左右方向	mm	0.5以下	
		スライディングパッド摩耗量		mm	—	
		底板ラップ部へこみ	セカンド	mm	1以下	
			サード、トップ	mm	1以下	
		局部へこみ (但し、へこみ長さは50mm以上)		mm	2以下	
	伸縮ワイヤたるみ	セカンド、トップ(サード)ブームの伸長差 (ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm伸長する)		mm	10以下	
		調整用ナット	縮側	N・m (kgf・m)	サービスマニュアル参照	
	平衡装置	締付けトルク	伸側			
		①起伏上げ操作にてブームを水平にする ②作業床内の測定場所に水準器を置き作業床傾斜角度を測定する ③ストロークエンドまで起伏の上げ下げを10回行う。 ④ブームを水平に起伏上げ操作で停止させる。 ⑤作業床の傾斜角度変位量を測定する 上記⑤の状態よりスタートする ⑥ブーム起伏角を約10° 上げる ⑦ブームを水平に起伏下げ操作で停止させる ⑧作業床の傾斜角度変位量を測定する		°	1° 以下	
油圧装置	油圧ポンプ (いすゞスムーサFⅩ 架装車の場合、低速時の回転数は中速時の回転数と同じ)	調整圧力(メインリリーフ) ※ゲージポート(アウトリガバルブ)		MPa (kg/cm ²)	17.2～17.7 (175～180)	
		調整圧力(ポートリリーフ) ※ゲージポート (ブーム操作バルブ)			15.2～15.7 (155～160)	
		高速時のポンプ回転数 負荷：ブーム全縮リリーフ時			min ⁻¹ 1000±25	
		中速時のポンプ回転数 負荷：ブーム全縮リリーフ時				

※1. 油圧シリンダの自然降下量 1. 起状シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム全縮状態で、起操作にて水平にする。 3) エンジンを停止する。 4) シリンダ（ロッド）にマーキングする。 5) 起状操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 ロッドの縮小量は2mm以内／10分 ※油温の高い時は行わないこと	
2. 伸縮シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム起状角度最大で、伸操作にて10cm伸長する。 3) エンジンを停止する。 4) セカンドブームにマーキングする。 5) 伸縮操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 セカンドブームの縮小量は3mm以内／10分 ※油温の高い時は行わないこと	
3. ジャッキシリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム格納状態で、ジャッキ張り出し操作にてタイヤを浮かす。 3) エンジンを停止する。 4) ジャッキインナーにマーキングする。 5) アウトリガ操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 ジャッキインナーの縮小量は1mm以内／10分 ※油温の高い時は行わないこと	

※2. 速度測定方法 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) 作業車の作動範囲に障害物が無いことを確認する。 4) 各操作は旋回台で行う。 3) 油温は40±5℃で行う。 ①起状速度 1) ブーム全縮状態で、伏せ操作により「伏」エンドまで下げる。 2) 起操作により「起」エンド停止までの時間を測定する。 ②伸縮速度 1) ブームを全縮状態で、起操作により「起」エンドまで上げる。 2) 伸操作により「伸」エンド停止までの時間を測定する。 ③ブーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) ブーム旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) ブーム右旋回、左旋回共に行う。 ④プラットフォーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) デッキ旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) デッキ右旋回、左旋回共に行う。	
---	--

※4. 作業半径測定方法

〔測定機器〕

1. 角度計
2. 巻尺
3. 重錘
4. 水系

「測定例」

※測定値や測定方法は、機種によって異なります
また、同じ機種でも張り幅やウエイトの重量によっても異なります
詳細はサービスマニュアルを参照してください。

- 1) 高所作業車を水平堅土に水平に設置する。
(タイヤが浮いていることを確認する)
- 2) ブーム操作は、下部操作の低速側に行うこと。
- 3) ブームを水平状態にし、伸長操作にて AMC100%停止させ、作業半径を測る。
やむを得ずブームを立てて行なう場合は、上部操作で微速「伏」操作にて行なうこと。
※バスケット(プラットフォーム)の積載荷重は機種、または仕様によっても異なっているため各機種のデータを参照すること。
- 5) 規定の作業半径に達してもブームの作動が 100%停止しない場合は、作業半径が大きくなる側の操作は絶対にしないこと。

